

まちの誇りを未来へ



photo 昭和40年代・塩屋海岸

昭和45年7月。
塩屋海岸に大勢の人が集まった。
海岸清掃である。
「ふるさとの海をきれいにしよう」

やがてこの活動は、町内全域へと広がり、
国道、公園、土手なども清掃する一斉清掃へと発展、
5,000人ものが参加する一大行事として
現在まで続いている。

「郷土を美しくする清掃」

この活動がつないできたものとは。

自分たちの手で 41年目の郷土愛



1北黒田・新立海岸には松前校区の子どもたちや住民が参加 / 2燃えるごみと燃えないごみに分別する松中生 / 3地域の人と協力して活動する北中生 / 4松前公園では親子で清掃する姿も / 5勤務日でない松前消防署職員は全員が塩屋海岸に集まった / 6おそろいのベストで活動をする障害自立ひまわりの会 / 7塩屋海岸にはたくさんの流木が漂着している / 8福徳泉公園で集められたごみの山 / 9義農公園を手分けして掃除する松小生 / 10最も大勢の参加者が集まった塩屋海岸 / 11町民グラウンドには草刈機持参で協力してくれる地域の人姿 / 12国道56号には早朝より老人クラブのメンバーの姿がある / 13仲間と知恵を出し合い、協力した / 14椅子を持参する人も。毎年参加しているからこそできる準備



7月6日午後2時。
塩屋海岸に集まった約1,000人の清掃ボランティア。北黒田海岸には900人、義農公園には250人、国道56号には1,200人。東に行けば、町民グラウンドにも福徳泉公園にも人があふれています。今年で41回目を迎えた「郷土を美しくする清掃」の参加者です。

町内の小中学生全員が、授業の一環としてこの活動に参加します。その他、PTA、老人会、地域住民、高校生や町内企業従業員など、参加者は総勢5,000人。松前町の人口の6人に1人が参加したことになります。

参加者の中には「小学校の時からしてのけど、北伊予だけの活動だと思った」と話す中学生や、「自分が子どものとき海に掃除にきてたけど、それがこの活動と同じなの?」と話す父母またはPTAの関係者もいます。

気付いていない人もいます。ですが、これは一斉に行われている清掃であり、長年続く歴史的活動です。

元役場職員の烏谷太紀勇さんは、始まった経緯をこう話します。

「当時、県民総参加による『クリーン愛媛運動』を実施していましたが、その一環として松前町でも何かしようということで、岡田校区婦人会が地域の子どもたちのために清掃していた塩屋海岸を、町民総出で清掃することにしたのです。スタート時は北伊予校区の住民も海岸に集まっていた」

以来、徐々に清掃範囲を広げ、義農公園、町民グラウンドや重信川レクリエーションラインなど、町内11カ所を一斉清掃する活動となり、現在まで続いています。

福徳泉公園を北伊予中学校の生徒と一緒に掃除していた池内豊さんは「子どもたちが本当によく掃除してくれる。この公園を自分たちの庭だと思ってるよ」と話していました。

この活動が続いてきた理由はここにあります。誰もが自分の家が自分で掃除するように、みんながまちをわが家のように思っているからこそ、続いてきたのです。町民一人一人の心の中に、『郷土愛』が自然と育ってきています。



profile
鍛冶 誠二さん

昭和10年生まれ。西古泉在住。ボランティア団体「いきいきふれあいサービス」に所属。

1300日続く清掃活動

鍛冶 誠二さん

清掃に かける 思い



郷土を美しくする清掃に併せ、町は清掃や環境保全の活動を熱心に続けている鍛冶誠二さんと、伊予農希少植物群保全プロジェクトチームに松前町表彰を贈りました。彼らの活動は、自発的で先進的な取り組みです。郷土を美しくする清掃に寄せられたたくさんの『郷土愛』。表彰を受けた2組も、それぞれの思いを持ち、清掃活動を続けています。彼らを動かす原動力とは。



profile
伊予農希少生物郡保全プロジェクトチーム
平成16年発足。6人でスタートし、現在会員は45人。塩屋海岸・重信川を中心に活動中。

失われた6種類の植物 伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム

面白いわけでもないけど ほっとけん

退職して、山登りを趣味とするようになった鍛冶誠二さん。山を歩いているとき、落ちていくごみが気になって拾って帰るようになりました。

「今度は出合橋の下に捨てられているごみが気になった。拾いたいなと思って。それからは、河川や海岸に行くようになりました」

平成18年10月から翌年1月までは大井出川堤防の清掃を、19年7月から20年4月までは、重信川河口と塩屋海岸の清掃をしてきました。現在は、北黒田・新立海岸の清掃を行っています。

この間ほぼ毎日、雨の日も風の日も行う活動日数は、延べ1,300日にも及びます。

7月7日、鍛冶さんに同行しました。北黒田海岸に着くなり目に飛び込んできたのは、誰かが捨てた家庭ごみ2袋。鍛冶さ

重信川河口から塩屋海岸までのエリアは、この半世紀で海浜面積の70%が消失し、6種類の海浜植物が消滅しました。伊予農業高等学校の玉井修二先生は、16年に『伊予農希少生物保全プロジェクトチーム』を結成。海浜植物、鳥類や昆虫類を含む生態系を調査し、海岸清掃などを行いながら海浜植物の再生に努めています。

「塩屋海岸はさまざまな植物と動物が見られる場所です。人と自然が触れ合える、こんなに素晴らしい海岸は他にはないと思っています。ですが、海岸に捨てられているごみが原因で6種類の植物が失われてしまいました」と玉井先生。

メンバーは、毎月第2土曜日に塩屋海岸の清掃を行っています。郷土を美しくする清掃からわずか4日後の7月10日の活動でも、1時間余りで53キロのごみを集めました。



教諭 玉井 修二さん
Tamai Shuji
失われた6種類の植物は、今すべて復活しています。これからも大事に守ってきたいです。

こんな海岸は他にはない



影岡 祐紀くん
Kageura Yuki (2年)
暑くても、掃除をしていたら気持ちが涼しくなります。自分もごみのポイ捨てしないようになりました。



伊賀上 椋くん
Igaue Ryo (2年)
みんなのためになる活動ができてうれしです。環境保護には一人一人の力が大切だと思います。



金子 将大くん
Kaneko Masahiro (2年)
地元のことをいろいろ調べて、全国で活動を発表することもあり、やりがいのある活動です。



仲田 怜史くん
Nakata Satoshi (2年)
先生に誘われるがままに入ったけど、海岸をきれいにするのは楽しく、やりがいがあります。

「こうして活動していれば、『注意喚起』につながります。郷土を美しくする清掃は、これができる活動だと思います。あの人数でみんなが必死に清掃をしている姿を見れば、誰だっのごみを捨てようとは思わないでしょう。参加した人だっこそう。例え強制で参加したとしても、一度参加した人は、ごみを捨てる人間にはならないですから」



鍛冶 誠二さん
Kaji Seiji
ただ歩くだけじゃ誰も喜ばんやろ。それを歩くついでにごみを拾うだけで、誰かのためになるんよ。

「川にも、海岸にもすごい量のごみがある。毎日拾っても、次の日にはまたごみがある。郷土を美しくする清掃は、たった1日ですごい量のごみが拾える。あんなだけの人数が集まることができるんだから。それに比べたら、わし一人で拾える量は限られる。ごみを拾うことが面白いわけでもないけど、地球が好きだから、ほっとけん」

「慣れた手つきで、持参したごみ袋に分別していきます。『こんなもんじゃないよ。こっちがひどい』と堤防の上を歩く鍛冶さん。そこには、堤防とテトラポットの間に捨てられているごみの山がありました。信じられないことに冷蔵庫まで。『考えられんよね』そう言っで、テトラポットにつかまりながら堤防を下り、ごみを拾う鍛冶さん。到底一人では拾いきれない量です。



池内豊さん

神崎 福德泉公園

地域の子どもたちとあいさつはするけど、一緒に何かをする機会は少ないので、コミュニケーションがとれてうれしいです。こういう活動を通じて、子どもも大人も、責任感や、助け合いの気持ちを学ぶのだと思います。



大西優太くん 岡田一騎くん
本多裕行くん 永井俊輔くん
北伊予中学校3年 福德泉公園

北伊予だけの取り組みだと思っていました。町内一斉に清掃しているなら、他のところには負けません。毎年恒例の行事。ぼくたちの先輩である地域の人と一緒に、自分たちの町をきれいにできうれしいです。



升田敬子さん 宮田明美さん
上野和美さん 出海夏子さん
岡田中学校PTA 塩屋海岸

自分が子どものときに掃除にきてたけどそれがこの「郷土を美しくする清掃」だったとは思いませんでした。すごく長く続く活動ですね。子どもたちがすごくうれしそうに掃除をしているのでいいですね。奉仕の心が育つと思います。



石田繁治さん

北川原老人会 国道56号

健康のためになります。掃除をして、体も心もすっきりです。老人クラブは声をかけたらよく集まってくれます。みんながすることやけんせいかんって。みんなで協力して、みんなで道路にきれいな花を咲かせられてうれしいです。



近藤香菜子さん 古手川桃子さん
兵頭那美さん 高市茜さん
岡田中学校3年 塩屋海岸

塩屋海岸の清掃に来たのは今回で3回目です。毎年毎年ごみが多くて大変だけど、海をきれいにすると、自分の心まできれいになった気分になるので楽しいです。みんなで協力するので、仲間とのきずなも深まります。



森田未来さん 久良友希さん

愛媛県警察学校生 塩屋海岸

今回初めて参加しました。人数の多さに驚きました。この海岸には、ランニングでくることがあるので、自分たちの手できれいにできてうれしいです。これからここにランニングに来るのが楽しみになりました。



茂川俊一さん

北川原老人会 国道56号

岡田校区老人会の恒例行事です。一人二人ではなく、みんなが団結して参加しないといけない活動です。活動を通じて、連帯感が生まれます。老人会の3つの柱「友愛」「奉仕」「健康」にまさにぴったりの活動です。



富山元行さん

東レ愛媛工場長 塩屋海岸

今回初めて郷土を美しくする清掃に従業員約350人が参加しました。工場周辺で行っている普段の清掃活動では、町民の皆様とふれあう機会がありません。少しでも地域のお役に立てたことは、大変意味があったと思います。

愛媛新聞社 社会部
野依 伸彦さん
Noyori Nobuhiko



地域の清掃を各種団体や企業、学校などが個々で長い間やっているところは多いです。松前町のとなりの松山市でも30年以上、市民大清掃という名称で、多くの市民が清掃活動していますが、平日にしているわけではありません。

最近、松前町取材し始めて、緑があふれ清潔な町という印象を強く持ちました。こういう地道な取り組みが反映しているのかもしれない。そして、それを誇らず、さりげなく続けているのが松前町民特有の美意識なのではないでしょうか。



愛媛新聞社の野依伸彦記者は、「長年、松前町のように仕事や授業のある平日に、自治体だけでなく学校、企業や行政など、地域が一体になって清掃活動に取り組んでいるところは少ない」と話します。

20万人の奉仕の心 未来へつなぐ活動へ

価値、そして松前の風土

7月6日、5,000人の力で集められたごみの総量は25トン。これほどのごみ収集を清掃業者に頼むとすれば、一体どれだけの費用がかかるのでしょうか。また、金銭面以外にもたくさん価値があったのです。皆さんの価値があったのです。郷土を美しくする清掃に参加した人たちの中には、さまざま「価値」に気付いている人が大勢いました。「やりがい」「地域とのつながり」「健康」「奉仕の心」「郷土愛の育成」「コミュニケーション」「助け合いの気持ち」「一体感」などです。郷土を美しくする清掃が41年も続いてきた力の源は「郷土愛」です。古里を愛する心によって「人の和」が生まれ、「誘われたから行ってみようかな」「わたしらもせんといかん」と行動を共にする人が増えました。「清掃活動の環」は、やがて子どもからお年寄りまであらゆる年代が参加する「地域の輪」へと発展、今では松前の夏の風物詩にさえなっています。

世代を超えた「3つのわ」は、松前のコミュニケーションの原動力であり、他にはない松前の風土です。

協働のモデル

12年に地方分権一括法が施行され、「地方の時代」がスタートしました。全国の市町村がこぞって「協働」に注目するようになりました。以来、複雑で多様な課題にこたえる方法として、「協働」が叫ばれるようになり、「協働」が叫ばれるようになり、「協働」は、町民・企業・行政がお互いに連携し、協力し合う、新しいまちづくりの形です。

昭和45年のスタート時より、町民・企業・行政が参加してきた「郷土を美しくする清掃」。この40年で、20万人の奉仕の心が注がれてきたことになりました。この取り組みこそ、まさに「協働」です。わたしたちは「協働」が叫ばれるずっと以前から、自分たちのまちを自分たちの手でよくしようと、みんなで活動してきたのです。

松前の清掃活動は、他の自治体のモデルになる魅力的な活動なのです。外から見た魅力は、ここに住むわたしたちにとっては誇れることなのです。

スタートから41年、ごみを拾うたびに深まる郷土愛と延べ20万人分の奉仕の心が、松前の町民性や風土を培ってきました。この清掃活動は、まぎれもなく「まちの誇り」です。その価値に気づき、共有し、誇りをもって未来へとつないでいきましょう。

